Ａ）中寺廃寺跡・満濃池遠景（南東より）

Ｂ）Ｃ地区遠景（南より）

図版３

Ａ）Ｃ地区石組遺構２　調査着手前状況　遠景（北東より）

Ｂ）調査着手前状況（北より）

Ｃ）調査着手前状況（東より）

Ｄ）調査着手前状況（南より）

Ｅ）調査着手前状況（西より）

Ａ）Ｃ地区石組遺構２　下草除去後状況（南より）

Ｂ）下草除去後状況（北より）

Ｃ）下草除去後状況（東より）

Ｄ）下草除去後状況（南より）

Ｅ）下草除去後状況（西より）

図版５

Ａ）Ｃ地区石組遺構２　落石除去後状況（南より）

Ｂ）落石除去後状況（北より）

Ｃ）落石除去後状況（東より）

Ｄ）落石除去後状況（南より）

Ｅ）落石除去後状況（西より）

Ａ）Ｃ地区石組遺構２　断ち割り状況（北東より）

Ｂ）落石断面（北東より）

Ｃ）基底面検出状況（東より）

Ｄ）石組遺構中央部断面（東より）

Ｅ）石組遺構下部中央部断面（北東より）

図版７

Ａ）Ｃ地区石組遺構４　調査着手前状況（右下が北）

Ｂ）調査着手前状況（北東より）

Ｃ）調査着手前状況（東より）

Ｄ）調査着手前状況（南西より）

Ｅ）調査着手前状況（北より）

Ａ）Ｃ地区石組遺構４　落石除去後状況（右上が北）

Ｂ）落石除去後状況（北東より）

Ｃ）落石除去後状況（南東より）

Ｄ）落石除去後状況（南西より）

Ｅ）落石除去後状況（北西より）

図版９

Ａ）Ｃ地区石組遺構９　調査着手前状況（右が北）

Ｂ）調査着手前状況（北より）

Ｃ）調査着手前状況（東より）

Ｄ）調査着手前状況（南より）

Ｅ）調査着手前状況（西より）

Ａ）Ｃ地区石組遺構９　落石除去後状況（右下が北）

Ｂ）落石除去後状況（北より）

Ｃ）落石除去後状況（東より）

Ｄ）落石除去後状況（南より）

Ｅ）落石除去後状況（西より）

図版 11

Ａ）Ｃ地区石組遺構９　中央部断面（北より）

Ｂ）Ｃ地区石組遺構９　断ち割り状況（北東より）

Ａ）石組遺構１（東より）

Ｂ）石組遺構１（北より）

Ｃ）石組遺構３（東より）

Ｄ）石組遺構３（北より）

Ｅ）石組遺構５（北東より）

Ｆ）石組遺構５（北西より）

Ｇ）石組遺構６（北東より）

Ｈ）石組遺構６（南東より）

図版 13

Ａ）石組遺構７（南西より）

Ｂ）石組遺構７（北西より）

Ｃ）石組遺構８（東より）

Ｄ）石組遺構８（北より）

Ｅ）石組遺構 10（北東より）

Ｆ）石組遺構 10（北西より）

Ｇ）石組遺構 11（北東より）

Ｈ）石組遺構 11（北西より）

Ａ）石組遺構 12（北より）

Ｂ）石組遺構 12（西より）

Ｃ）石組遺構 13（北より）

Ｄ）石組遺構 13（東より）

Ｅ）石組遺構 14（北より）

Ｆ）石組遺構 14（東より）

Ｇ）石組遺構 15（北東より）

Ｈ）石組遺構 15（北西より）

図版 15

Ａ）石組遺構 16（南東より）

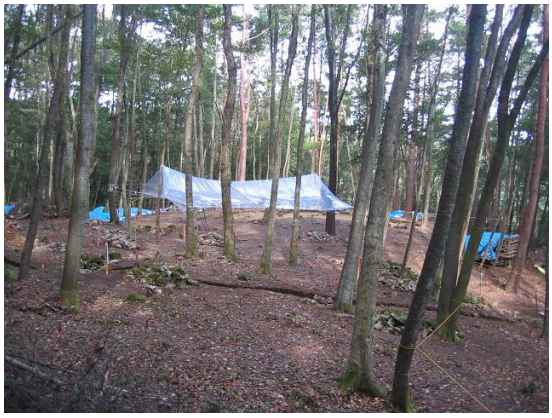
Ｂ）石組遺構 16（南西より）

Ｃ）トレンチ１　遠景（北より）

Ｄ）トレンチ２　遠景（南西より）

Ｅ）トレンチ３西半部　遠景（南西より）

Ｆ）トレンチ３東半部　遠景（南東より）



Ｇ）トレンチ４　遠景（南東より）

Ｈ）トレンチ５　遠景（北東より）

Ａ） Ｃ地区出土遺物（内面）

Ｂ） Ｃ地区出土遺物（外面）

報　告　書　抄　録

ふりがな	へいせい18ねんど　なかでらはいじあとはっくつちょうさほうこくしょ
書　　名	平成18年度　中寺廃寺跡発掘調査報告書
副 書 名	
巻　　次	2007．3
シリーズ名	まんのう町内遺跡発掘調査報告書
シリーズ番号	第2集
編著者名	加納裕之
編集機関	まんのう町教育委員会　中寺廃寺跡発掘調査室
所 在 地	〒766－0202　香川県仲多度郡まんのう町中通875番地　TEL(0877)85－2221
発行機関	まんのう町教育委員会
発行年月日	2007年3月10日

総頁数	目次等	本　文	図　版	表	挿図枚数	写真枚数
72頁	6頁	50頁	16頁	5枚	17枚	88枚

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
中寺廃寺跡（なかでらはいじあと）	香川県（かがわけん）仲多度郡（なかたどぐん）まんのう町（ちょう）造田（そうだ）3469-2	374067		34度7分19秒	133度55分3秒	2007.6.1～2007.12.5	300m²	確認調査

所収遺跡名	種　別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
中寺廃寺跡	山岳寺院	平安	石組遺構、掘立柱建物跡、柱穴、溝状遺構	須恵器、土師器、黒色土器	山岳仏教草創期の山岳寺院における発掘調査

要　約

中寺廃寺跡は集落から離れた標高675m～730mの山中に立地する山岳寺院である。創建時期は山岳仏教草創期である9世紀に遡る。建物跡は3～6棟ごとに4地区に分かれ、約1km 四方の範囲に遺構が展開している。各地区においては石組・土壇・礎石を確認しており、寺院を構成する多様な伽藍が展開していたと考えられる。今年度は遺跡南西に位置するC地区において、調査を行った。C地区において石組遺構を16基確認し、内3基の発掘調査を行った結果、中寺廃寺跡の一部を成す遺構であると考えられた。その結果、中寺廃寺跡は寺院中心部であるA地区、修行と生活の場であるB地区、祭祀的な空間であるC地区が谷を挟んで向かい合う、古代山岳寺院の原初の姿を良好に示す重要な遺跡であることを確認した。

まんのう町内遺跡発掘調査報告書　第２集

平成 18 年度

中　寺　廃　寺　跡

編集・発行：まんのう町教育委員会

印　　刷：太陽印刷株式会社

発行年月日：平成 19 年３月 10 日